

Sustainable Report No.143

クリーン活動から学ぶ 人と人との繋がり



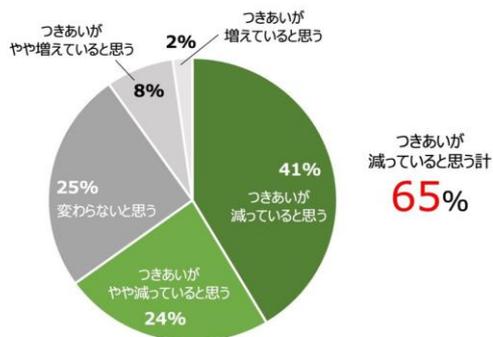
サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

- 1980年代は近隣付き合いや寄合などがあったが、2023年には人がふれあう時間が減ってコミュニケーション力が低下。過去3年間で**人付き合いが減ったと思われるのが65%**にも及ぶ声が出ている。
- 地域行事の減少や、行事があっても忙しさから参加意欲の低下が考えられる。共働きせざるをえない家庭事情の変化や、若い世代は会わずとも満足できる**デジタルツールの普及**が要因に挙がる。
- 会話をして初めてその人の事が分かり合えることもあるが、**イベントや催しなどに参加する意欲**が無ければ会話のきっかけ自体も少なく自ずと会話しなくなるのではないかと懸念されている。

■ 人づきあいの変化

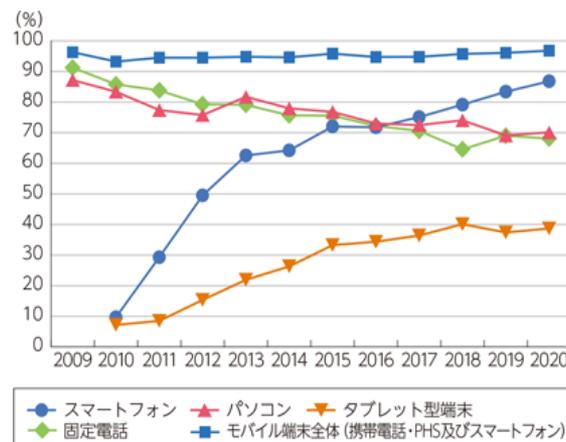
Q. 最近3年間で、あなたと友人や仲間との「つきあい」は、どのように変わってきていますか？



Data: 2023年4月実施/1000年生活者オリジナル調査/20代-80代の男女 670名

出典：博報堂／100年生活者研究所

■ 情報通信機器の世帯保有率



出典：総務省

▶NEXT：地域・企業・団体が一体になり取組む活動

■ 実行者／解決方法／残る課題

- イオングループは環境保全と地域貢献の活動として、1991年から「**クリーン&グリーン活動**」を展開して**33年継続**している。クリーンは心のクリーン、グリーンは植樹の自然環境保全で地域に貢献する。
- 各店に**資源ごみ回収BOX**を備え、適切なリサイクルを全店舗が展開することで社会貢献。**工作教室のイベントとの親和性**も高まり、集客策にもなっている。
- イベントの参加対象となる個人は、活動に参加するにあたり、時間が取れない現状もあるのではないかと。日頃の仕事や生活環境において**現代社会は時間の余裕がない**傾向にあるだろう。

■ イオングループのリサイクルステーション

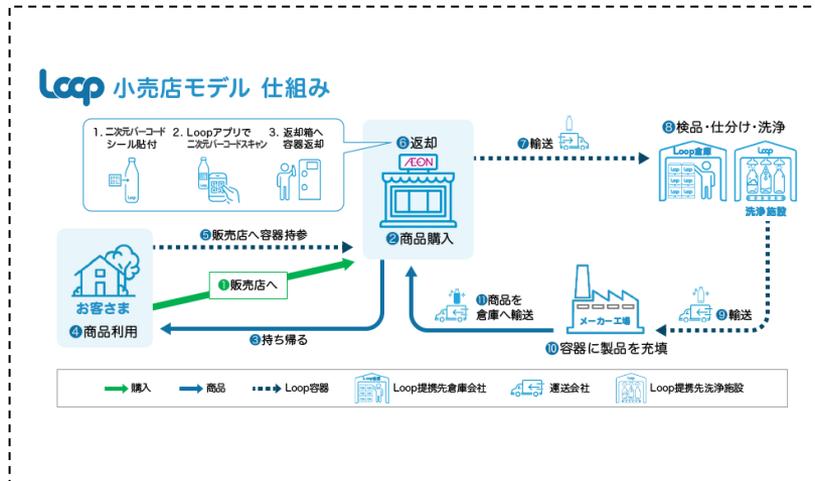
店頭へ設置した資源回収ボックス
全国368箇所に導入 (2023年4月現在)

古紙・ペットボトル回収機
バイオセボン5店舗に導入 (2023年6月現在)

アルミ缶	紙パック	食品トレー	ペットボトル
約3億6,440 万本	約1億5,563 万本	約5億3,589 万枚	約5億1,486 万本
回収量 5,830 t	回収量 4,669 t	回収量 3,751 t	回収量 1万3,541 t
CO ₂ 削減量 5万142 t-CO ₂	CO ₂ 削減量 2,335 t-CO ₂	CO ₂ 削減量 2万3,633 t-CO ₂	CO ₂ 削減量 4万8,748 t-CO ₂

出典：イオン株式会社

■ Loop 小売店モデル 仕組み



出典：イオン株式会社

▶NEXT：継続して人が集まる「楽しみのある企画」が必要

■ 弊害の原因／理想／企業施策

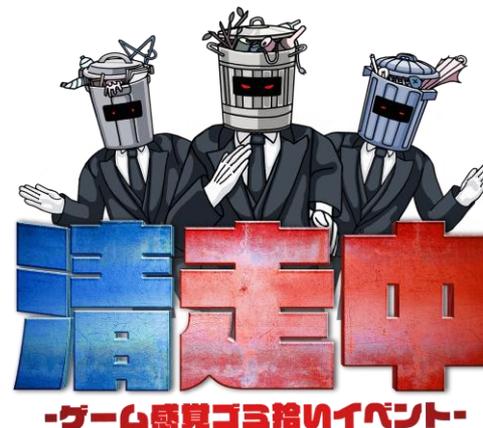
- 便利な時代により何事も時短が求められ、限られたハイテク企業でない限り、現場では人手不足で個々の負担が多く、**消費者のニーズに合わせれない**ギャップがある。
- **仕事とプライベートとの区別**が出来る状態によって日々の忙しさで取れない時間を解消して興味がある取組をしたい事をする時間を得られることが理想である。
- 強制参加ではなく自主的にもつながるため、企業として参加してもらうには**清掃活動をゲーム感覚で楽しくする**事でより一層参加意欲が湧いてくる。

■ 参考：「スポGOMIワールドカップ IN奈良」



出典：海と日本プロジェクト広報事務局

■ 参考：「清走中」



出典：清掃中公式サイト（運営：株式会社Gab）

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 100年生活者研究所（株式会社博報堂），「「人づきあい」の進化は100年生活をもっと豊かに?!」,2023年5月12日 (https://hakuhodo-rdc.com/100years_lab/posts/100news230512/)
- 総務省,「デジタル活用の現状」内「第1部 特集 デジタルで支える暮らしと経済」,令和3年版 (<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd111100.html>)
- イオン株式会社,「資源循環」,2024年5月15日参照 (<https://www.aeon.info/sustainability/environment/reuse/>)
- イオン株式会社,「ゼロ・ウェイスト（ごみを出さない）新しいライフスタイル体験を」,2024年5月15日参照 (https://www.aeonretail.jp/campaign/loop/?utm_source=aeon&utm_medium=referral&utm_campaign=loop&utm_content=sustainability)
- 海と日本プロジェクト広報事務局,「『スポGOMI ワールドカップ 2023 奈良 STAGE』開催 会社の同僚チーム「Teru-chans」が優勝! 拾ったごみの量は3.88kg」,2023年9月6日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001934.000077920.html>)
- 逃走中公式サイト,2024年12月12日参照 (<https://www.seisouchu.com/>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的著作権は株式会社小川電機に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。